

北見武道通信

令和6年5月2日 00689号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【事務局情報】6月1日全日本「形」

北見の中澤伸一(七段)中澤正(六段)が全国枠予選、東京・警視庁をやぶり「極の形」2位通過で本選出場が決定しました。本戦は6月1日講道館で行われ、全国10地区の代表チームが10組+推薦枠(全国枠)13組で日本一を決定します。また、写真に写る北見の黒川俊光(三段)と中澤佑紀(三段)が同じく「極の形」北海道代表として選抜され出場することが決まりました。更に、一昨年まで北見に所属していた堂野武尊(弐段)と荒木楓葵(弐段)が札幌代表として「投の形」で出場することも決まっています。〈佐藤〉



武道振興協会事務所の花シリーズ 「さくら」北見市

武道館前の桜が今年もきれいに咲いてくれました。北見市東陵運動公園は桜の隠れスポットかもしれません。〈佐藤〉
※4月27日15時05分撮影



連載 中国「老子」の思想 三十一章 軍隊の本質

武器は不吉な道具だ。それは、それは、片寄ったはたらきしか持たない。だから「道」を体得した聖人は、武器を使わない。君子は、左を上位とするが、武器を使う時だけは、右を上位とする。武器は不吉な道具だから、もともと君子の使うべきものではないが、やむを得ずには、無欲でなければならぬ。したがって、戦に勝っても、名誉とは考えない。それを名誉と考える者は、生まれついでの人殺しである。人殺しは、何をもちろんでも、人々に受け入れられるわけがない。祝いの席では左を上位とし、葬儀の席では右を上位とする。それが世間の習慣だ。ところが軍隊では、副将軍が左に坐り、大將軍は右に坐る。つまり軍隊は、つねに葬儀の作法にならっているわけだ。人を無数に殺すがために、戦に勝っても、喪に服し、悲しみの涙を注ぐ。これが軍隊本来の姿なのだ。*〈君主〉治者階級に属すること。老子は理想的人格を「聖人」という言葉で表し、「君子」はそれより一段低い意味に用いている。〈左を上位とする〉古代において左右いずれを貴んだか、節が分かれていて一定しない。ただ、南方の楚の国では左を貴んだらしいといふので、老子を南方出身と見る学者もいる。原文：夫佳兵者不祥之器、物或惡之。故有道者不處。君子居則貴左、用兵則貴右。兵者不祥之器、非君子之器、不得已而用之、恬憺爲上。勝而不美。而美之者、是樂殺人。夫樂殺人者、則不可以得志於天下矣。吉事尚左、凶事尚右。偏將軍居左、上將軍居右。言以喪禮處之。殺人之衆、以悲哀泣之、戰勝以喪禮處之。三十二章に続く